

次期基本構想骨子(案)

総務・政策・企業常任委員会 資料1
平成30年(2018年)6月13日
総合政策部企画調整課

1 性格・計画期間・特徴

《性格》 県政の総合的な推進のための指針、各分野の部門別計画、ビジョンの基本となるもの。県民と理念を共有し、その実現に向けて、ともに取組を進めていくための将来ビジョン

《計画期間》 2019年度～2030年度(12年間)

2 2030年の展望

(1)世界・日本の潮流

- 【全体】○SDGs(持続可能な開発目標)の国連での採択。
- 【人】○世界的な人口増の一方で日本は人口減少社会。
○日本は超高齢社会に突入。「人生100年時代」。
- 【社会】○世界的な人材交流拡大。多様な人々の理解が重要。
○大規模災害の発生可能性が高まる。
- 【経済】○第4次産業革命の進展(IoT, AI)
○世界経済の中心が欧米からアジアへシフト。
○世界的な高度人材の獲得競争。
- 【環境】○温暖化による気候変動の影響、パリ協定の発効。
○生態系と生物多様性の劣化。

(2)滋賀の特徴

- 【人】○若年者比率が比較的高いが、地域差が大きい。
○人口の流出・流入が多い。
○平均寿命が長い。
○先人の知恵が生きてくる風土。ボランティア活動等が活発。
- 【社会】○適度に都市生活が送れる豊かで良好な住環境。
○伝統的な地域コミュニティの結びつき。
○高速鉄道網や高速道路網の整備による地理的優位性。
- 【経済】○第二次産業の比率が高い。
○大規模事業所、研究所、マザー工場、大学等の知的集積。
○中小企業・小規模事業者が99.8%を占める。
○特色ある米づくり(環境こだわり農業取組面積日本一)。
- 【環境】○琵琶湖を中心に流域がまとまった世界。
○琵琶湖の恩恵を受ける一方、直面する課題は複雑化。
○多様な主体との連携による森、川、里、湖の保全の取組。
○県民や事業者の琵琶湖や自然環境を大切にしている意識。

(3)2030年 滋賀のリスク

- 【人】○人口減(推計137万人 2015比▲2.9%)。
○県内の半数の市町で高齢化率3割超。
○変化の大きい時代への適応の不安。
○人生100年時代の生き方への不安。
- 【社会】○コミュニティ弱体化による共助低下。
○社会を支える様々な人材の不足。
○社会インフラの老朽化。
○南海トラフ地震等、大規模災害の発生。
○近隣での高速道路、鉄道網整備の影響。
- 【経済】○内需縮小による産業への影響。
○国内外への人材流出、後継者不足。
○第4次産業革命への対応を誤った場合の競争力低下。
- 【環境】○琵琶湖や流域での生態系のバランスの変化。
○森・川・里(農山村)・湖の有する多面的機能の低下。
○気候変動に関連する影響の深刻化。

3 基本理念と目指す2030年の姿

基本理念:

人生100年時代 滋賀で幸せに生きる
～ つくる そだてる わかちあう ～



4 政策の基本的な方向性

目指す姿の実現のために必要な政策

- ①未来への希望に満ちた健やかな生き方
 - (1)生涯を通じた「健康」の追求
 - ・「からだ」の健康づくり
 - ・「こころ」の健康づくり
 - ・幸せな最期のために
 - (2)柔軟なライフコースの実現
 - ・たくましく柔軟に生きるための学校教育の推進
 - ・生涯を通じた学ぶ機会の提供
 - ・子どもを育て、子どもが育ちやすい環境づくり
 - ・柔軟な働き方の実現
 - ・誰もが複数の役割を持てる社会づくり
- ②未来を拓く 高い価値を生み出す産業
 - ・ICT, IoT, AI等による産業の高度化
 - ・成長市場・分野を意識した産業創出・転換
 - ・産業の魅力向上による事業承継、担い手確保・育成
- ③未来を支える 多様な社会基盤
 - ・効率的で強靱な社会インフラの整備、更新、維持管理
 - ・第4次産業革命を支える情報基盤の整備
 - ・人と人、人と地域のつながりづくり
 - ・安全安心の基盤づくり
 - ・多様性を認め合う共生社会の実現
- ④未来につなげる 豊かな自然の恵み
 - ・琵琶湖や自然の恵みの保全再生・活用
 - ・地球規模の視点を持った環境問題への対応
 - ・将来の環境を支える人づくり

5 政策の推進方策

- 全体評価
目指す姿①～④を代表する指標を設定。全体の到達状況を評価
- 政策の推進
4年間×3期に分けて政策レベルの実施計画。
- 部門別計画とのすみわけ
具体的な施策・事業は、部門別計画に委任。
- SDGsの視点を活用した施策の検討
事業実施に当たり、SDGsの視点を活用することを明記。